

舞鶴に暮らす人々の物語を映画化

シマフィルム 志摩さん(北田辺)が製作総指揮

森崎東監督
来春全国公開



吉原での撮影の様子。右が森崎東監督、左は俳優の原田芳雄さん=シマフィルム提供

舞鶴の近代史の光と影背景に

「ワタシだ」ある家族の生きる姿描く

舞鶴の近代史を背景にした、舞鶴に暮らす人々の物語を映画化した作品「ワタシだ」の製作が進んでいる。「風花」などを製作したシマフィルム代表で、志摩機械社長の志摩敏樹さん(40)＝北田辺＝が、「喜劇女シリーズ」などの森崎東監督に持ちかけ実現した。明治以降に海軍が置かれて発展した光と、浮島丸事件など歴史にほころうさされた影を背景に、家族の生きる姿を描いている。志摩さん製作総指揮のもと、このほど舞鶴ロケが終わり八月に完成の予定。来春の全国公開を目指している。

接客技術の技能講習会

高齢者対象 7月から 舞鶴西料飲組合が指導

高齢者を対象にした接客技術の技能講習会(社団法人京都府シルバー人材センター主催)が、七日から十一日までの五日間、円満寺の市西市民プラザで開講される。講師の舞鶴西料飲組合(橋時夫組合長)の組合員が、レストランや飲食店での接客技術の講習内容、接客技術の基本、宴会予約の受け

金・白金相場	
金	1,385円
白金	2,616円
売	1,392円
買	2,621円

店頭1グラム当たり価格 (3日午前10時現在)

宝飾・時計・メガネ ショア三
二条大門 62-0370

らなかつた。自分流の映画作りを貫く志摩さんは、「男はつらいよ、フーテンの寅」や「生きてい



総合文化会館で打ち合わせをするオルスの金さん(左端)ら

韓国伝統芸能で文化交流

浮島丸事件の犠牲者の追悼を続ける舞鶴市民に、感謝の気持ちを伝えて文化交流をしよう、韓国光州市の伝統文化研究会「オルス農楽団」と舞踊家ら来鶴し、追悼集会の前日の八月二十三日午後一時半から浜の総合文化会館大ホールで、伝統芸能を披露する無料公演を開催する。公演後は市民との交流をし、集会には光州市民約百人も参加する。一日、オルスの団員が同会館を訪れ舞台の打合せをした。

来月23日、無料公演
光州市民との集会も
朝鮮労働者らに乗を続け、事件を題材とした映画も製作された。映画で事件を知った光

にも引き合わせた。脚本は森崎監督と近藤さんが完成させた。浮島丸事件の生存者を母に持つ在日韓国人の女性と夫、その二人の子供たち、養護学校の女性教師と父らが登場し、冤罪事件の中で家族のあり方を描いている。舞鶴の歴史の具体的な説明はないが、それぞれの家族に歴史を投影した。出演は原田芳雄さんや倍賞美津子さん、主演で新人の肘井美佳さん、石橋蓮司さんら。五月十四日から六月二十一日まで吉原や調建設、みずなぎ学園などで撮影。浮島丸事件の殉難の碑前でもロケを行った。吉原の自治会や婦人会など延べ四百人がエキストラで協力した。製作総指揮として企画から製作まで全てを担当した志摩さんは「今回の映画は多くの人たちのお世話になってつくることができました。映画を見たらやっぱり舞鶴に生まれてよかったと思うことがたくさんある、そんな共感をしていただけたらと思います」と話していた。